

平成 21年 5月27日現在

研究種目：基盤研究 (C)
 研究期間：2007～2008
 課題番号：19510279
 研究課題名 (和文) 近代沖縄における離島女性の労働実態－1930～1940年代の八重山を中心に
 研究課題名 (英文) The labor realities of women in solitary islands of modern Okinawa: centering Yaeyama islands in 1930-1940
 研究代表者
 水谷 明子 (MIZUTANI AKIKO)
 津田塾大学・国際関係研究所・研究員
 研究者番号：60360129

研究成果の概要：近代沖縄における離島女性の労働実態について、特に 1930～1940年代の八重山諸島を中心に、当時の統計資料、新聞・雑誌記事、個人証言、インタビューなどを整理した。また、この地域・この時代に特徴的な台湾との間の移動労働、前近代から継続する女性差別、沖縄・離島に対する社会的偏見・蔑視の関係から考察し論文を執筆した。収集した資料を中心に、データベースを作成し、近代沖縄女性史、ジェンダーと女子労働、東アジア国際関係学の視点から本課題について更に考察する今後の課題に向けて基盤となる調査・資料整理を行った。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	200000	60000	260000
2008年度	200000	60000	260000
年度			
年度			
年度			
総計	400000	120000	520000

研究分野：複合新領域

科研費の分科・細目：ジェンダー

キーワード：経済・労働、近代史、女性史、国際関係、東アジア、移動、農村、共同性

1. 研究開始当初の背景

沖縄近代史における女性史研究は、通史

または個人史・証言集が多く、独自の祭祀、民俗・人類学的研究が盛んである一

方、戦時期を除き歴史研究が少ない。また地域にも偏在があり、戦後史を含め本島における議論の蓄積に比べ、離島の研究・資料整理は、進んでいない。この地域には、前近代における人頭税や植民地台湾との間の活発な労働移動など、独特の境遇や動きがあり、近年の地方史編纂の中でも研究の動向が注目されているが、当時の資料の整理、体験者のインタビューなど基礎的かつ現在可能な作業が多く残っている。

2. 研究の目的

沖縄の女性労働について、特に八重山諸島を中心に、1930年代から40年代における実態を明らかにする。労働の側面より、女性史を捉えなおし、前近代の人頭税など制度的に周辺化された八重山の地域性、沖縄本島や植民地台湾との間の移動、1903年に終了した土地整理事業以降の農村の変化、近代において沖縄・台湾の中心的産業であった糖業とそれに従事する女性たちの生活経験、1930年代以降に顕著となる日本全体の産業化・地方改良の動きの影響など、女性労働に影響を与えた要因との関係を分析・考察する。さらに沖縄における共同性や境界を超えたネットワークについて、女性の労働・生活の視点から明らかにする。

また、近代資本主義発展と東アジアにおける国民国家体制・帝国主義体制が進展する時期、「周辺」化された沖縄の中でも「周辺」である離島の女性が、労働を通してどのような経験をしたのか、明らかにすることは、現在の国際関係の中で「周辺」化された地域の女性史を参照する上でも重要だと考える。

3. 研究の方法

以下の点に留意して、研究史・資料の整理・収集及び分析枠組みの検討を行なった。

(1) 近代沖縄の離島女性の労働実態を整理するうえで、沖縄近現代史における農村・経済研究、女性史研究、八重山研究の既刊資料・研究文献について研究史整理から、考察の枠組みを検討した。

(2) 八重山の女性史・女性労働に関し、既刊の資料・証言集、新聞・雑誌記事等から資料を収集し、整理した。

(3) 当時の沖縄、離島の女性が置かれた状況の中で女性労働について考察するため、八重山において体験者からの聞き取り調査を行なった。

(4) 得られた資料を整理し、他の地域における女性史・近現代史研究、国際関係におけるジェンダーと労働、開発と女性に関する議論などを参照しつつ、考察を深めた。

4. 研究成果

沖縄の近代における女性労働について特に八重山諸島を中心に、1930年代から1940年代における実態に迫るため、以下の作業を行なった。

(1) 沖縄近現代史における既刊の農村経済研究、女性史研究、八重山研究について検討し、近代沖縄・八重山における農村共同体の変化、女性労働・労働力移動に焦点を当て、労働の視点から八重山の女性史を考察する枠組みを検討した。

(2) 既刊資料集、図書館・公文書館に収集されている文献資料から、八重山の女性史・女性労働に関するものを収集し

整理した。

(3) 当時八重山にて刊行されていた以下の新聞、雑誌、個人回想録などを中心に資料を収集し、整理した。

『海南時報』

『先島朝日新聞』

『八重山民報』

『八重山タイムス』

『石垣産業組合報』

『先島新報』

『八重山婦人新聞』など

また、移動先の台湾における状況を把握するため、当時の台湾で刊行されていた新聞雑誌についても調査し、資料を収集・整理した。

『台湾日日新報』

『人民導報』

『台湾新報』

『台湾新報』など

(4) 文献資料を補足し、文字化されにくい女性の体験・感想を記録するために、八重山において数件の聞き取り調査を行なった。当時の農村の状況や個人の体験について、労働実態、生活状態、経済状態の認識と対応、労働や生活における共同性、制度の変化と宗教・風俗の関係、移民・出稼ぎ戦争・戦後の体験、台湾との関係、労働技術の浸透、産業化のための組織など、八重山の女性の労働を取り巻く環境、生活認識労働意識、価値観などについて追及することができた。また、当時の労働、労働移動を体験した女性本人だけでなく、男性、地域住民など、幅広くインタビューをすることができた。

(5) 以上の調査で得られた資料・考察を基に、特に八重山と台湾の間の移動労働と

当時の女性に対し、前近代から継続されてきた性差別、沖縄・離島に対する社会的偏見・蔑視の関係から再考察し、論文を作成した。

(6) 今後の課題として、沖縄近代史、特に離島・八重山の女性史における本課題を以下の点より更に検討を深め、文章化中である。

・近代の人頭税など制度的に周辺化された八重山の地域性、1903年に終了した土地整理事業後の農業行政の技術的・組織的变化、この地域の中心的産業であった糖業・漁業とそれに従事する女性たちの生活経験、女性たちが従事していた織物業との関係、学校教育や青年団活動など女性を取り巻く制度や近代化、

1930年代以降顕著となる日本全体の産業化・地方改良の動きによる影響、沖縄における共同性や境界を越えたネットワークなど、この地域における影響要因の多様性についての分析・考察。

・ジェンダー・開発学における女性労働の研究整理・研究動向、労働の女性化、性による性差・再生産労働、世帯経済における女性労働の位置づけ、経済危機と女性労働の関係など、ジェンダー・女性労働の視点からの分析・考察。

・同時代の東アジアの他の地域における女性労働との関係・比較、近代資本主義発展と国民国家体制・植民地支配が進展する時期の東アジアにおける女性史・女性労働の特徴について、国際関係学の視点からの分析・考察。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究

者には下線)

〔雑誌論文〕 (計2件)

・水谷明子「「ソテツ地獄」から「蓬莱の島」へー 1920～30年代の八重山における女性たちの渡台をめぐってー」津田塾大学国際関係研究所『総合研究』第五号、2008年3月、59－79ページ。

・水谷明子「勝方＝稲福恵子著『おきなわ女性学事始』」女性史総合研究会『女性史学』第18号、2008年、131－134ページ。

〔その他〕

・八重山諸島にて 1930年から1940年刊行された新聞を中心に、女性史・女性労働に関する記事目録を作成中。(その前後を含め、記事目録の作成を延長、整備・公開方法については現在検討している。)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

水谷明子